

巻頭言

仕事は楽しい？

一般財団法人 日本建築総合試験所
常務理事 多賀 謙蔵



“働き方改革”の達成に向けて労働環境を整えるための法整備などが具現化しています。今年の4月1日からは、これまで猶予されてきた運送業、建設業、医師に対する時間外労働の上限規制が始まり、GBRCの業務はもとより、私たちの生活にも影響が及ぶのは必至でしょう。一方、働き方が改革されても働かなくてよくなる訳ではありません。働く側の意識はどうあるべきか、この機会に改めて考えてみたいと思います。

「お金を得るため」、「社会の一員として務めを果たすため」、「自分の才能や能力を発揮するため」、「生きがいを見つけるため」など様々な“働く目的”があると思いますが、一択というわけではなく、複数の目的を各人それぞれが持っていて、人生双六を進んでいく中でその重みづけが異なる、あるいは変化する、というのが実情でしょう。そんな中で、仕事をするからには楽しく働きたい、このことは誰もが願うことだと思います。私も全く同感ですが、これに関わる私にとっての目から鱗の出来事をご紹介します。設計事務所で構造設計を行っていた20代後半のこと、任されることが増える喜びが苦しみに変わり、学生時代の先輩（若くして中堅企業の2代目社長）に悩みを打ち明けた時のやりとりです。

- ・「忙しすぎて仕事がつらいです。」→「仕事がつらいのは当たり前や。毎日楽しかったら入場料をもらわんとアカンわ。」
- ・「ケーススタディをしっかりとしないといけないのに、時間が無くて限られた比較検討しかできず、罪悪感すら覚えます。」→「お前が担当になったのも縁のもんや。できることを精いっぱいやるしかないやろ。嫁さんを決めるのに世界中の女性を比較検討したか？」

この一言で霧がサッと晴れたように行き詰まり感がなくなりました。状況によってはハラスメントとなりそうなアドバイスですが、私にはその後も金言となっています。つらいことが多くても、時折りとはいえ、難題を解決できた時の達成感や困難な局面をチームワークで乗り切った時の満足感を得られる喜びが、40年以上仕事を続けられる原動力になってきました。精神面の強さ、瞬発力、持久力も身体能力と同じく鍛えることで向上し、様々なプレッシャーに対して良い意味で鈍感になれます。「仕事がつらいのは当たり前」と開き直りながら、それぞれのプチ・プロジェクトXの達成を積み重ねていきませんか。